

(1993年11月26日設立)

英語語法文法学会 THE SOCIETY OF ENGLISH GRAMMAR AND USAGE

事務局便り

No.37

2022年4月12日

会 長 中澤和夫
 事務局 〒485-8565 愛知県小牧市大草 5969-3
 愛知文教大学人文学部人文学科 西脇幸太 研究室内
 TEL : 0568-78-2211 (代表) FAX : 0568-78-2240 (代表)
 Email: segu.office@gmail.com
 ウェブサイト: <http://segu.sakura.ne.jp> 郵便振替口座 02260-0-70393 英語語法文法学会

◆『英語語法文法研究』第28号刊行

『英語語法文法研究』第28号が2021年12月に刊行されました。3編の研究論文と3編の語法ノートが掲載されています。

◆会長の再任

2021年度第2回運営委員会(2021年10月16日～2021年10月22日、メール会議)で、会長選出内規により、中澤和夫会長の2期目の就任が決定されましたのでご報告いたします。

◆事務局の移動のお知らせ

今年度4月より事務局長に西脇幸太氏(愛知文教大学)、会計・名簿管理担当に佐藤健児氏(日本大学)が就任しました。それに伴い、事務局は愛知文教大学人文学部人文学科(西脇幸太研究室)に移りました。

◆第30回大会開催案内

英語語法文法学会第30回大会を下記の要領で開催します。第30回大会は特別に記念大会となります。後述の応募規定を十分にご参照いただき、ご応募くださいますようお願いいたします。

日時: 2022(令和4)年10月15日(土)

第30回大会はZoomによるオンライン方式で開催します。詳細については本学会ウェブサイトでご追ってご連絡いたします。

第30回大会のシンポジウムは、第30回記念大会特別講演として本学会の名誉顧問による講演を実施します。

講師 八木 克正
 講師 安井 泉
 講師 内田 聖二 [敬称略]

◆第18回英語語法文法セミナー

標記セミナーを下記の要領で開催いたします。

日時: 2022(令和4)年8月8日(月)
 13時30分～17時30分

今回のテーマは、『英文法の周縁に光を当てるー例外から規則へ』です。司会と講師、各講師のタイトルは以下のとおりです。

司会・講師 濱松純司(専修大学)
 「受動名詞形の性質ー例外から規則へー」
 講師 林龍次郎(聖心女子大学)
 「修飾語句の英文法ー“people locally”や“silky smooth”は例外なのかー」
 講師 滝沢直宏(立命館大学)
 「典型から外れる語法文法ーageの用法、下位を表す最上級、同格名詞節を導くthatの省略などを例にー」
 講師 牛江一裕(埼玉大学名誉教授)
 「何が例外なのかを考えるー譲歩構文、存在文、冠詞ー」 [敬称略]

Zoomによるオンライン開催を予定しております。詳しくは後日、英語語法文法学会ウェブサイトの「研究大会・セミナー」のページ(<http://segu.sakura.ne.jp/events.php>)に掲載予定です。参加申し込みの方法や参加費につきましてもこちらに掲載いたします。申込み締め切りは7月30日(土)です。

必要な方にはセミナー受講証も発行いたします。奮ってご参加ください。

◆第22回「英語語法文法学会賞」選考結果

初代会長小西友七先生の寄付金を基金とした第22回「英語語法文法学会賞」（2020年4月1日～2021年3月31日までに出版された単行本が対象）について、応募がなかったため、該当者なしという結果になったことが第29回大会（オンライン開催）において報告されました。

◆第23回「英語語法文法学会賞」について

英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に贈られる第23回英語語法文法学会賞対象図書（他薦に限る）を受け付けております。対象図書は2021年4月1日～2022年3月31日までに出版された単行本です（ただし、研究社より順次刊行されている『〈シリーズ〉英文法を解き明かす』全10巻は本賞の対象とはなりませんので、ご注意ください）。

同封の推薦用紙に推薦図書、推薦理由を記入の上、faxあるいは郵便で2022年5月10日までに事務局宛にお送りいただくか、同一の内容をemailで事務局までお知らせください。

事務局：〒485-8565 愛知県小牧市大草 5969-3
愛知文教大学人文学部人文学科
西脇幸太 研究室内
FAX：0568-78-2240（代表）
email: segu.office@gmail.com

英語語法文法学会賞の授賞に関する規定

（授賞）

第2条 学会賞は、前年度4月1日から翌年3月末日までに、英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に対して、学会が設置する「英語語法文法学会賞委員会」（以下「委員会」という）の選考により、運営委員会の議を経て授賞する。

- 2 授賞は、原則として年度ごとに1件とする。
- 3 授賞式は年次大会において行う。

（関係部分一部抜粋）

◆第12回「英語語法文法学会奨励賞」選考結果

若手会員による英語の語法・文法に関する優れた論文に対して贈られる第12回「英語語法文法学会奨励賞」は、慎重審議の結果、該当者なしとなりました。

なお、第13回「英語語法文法学会奨励賞」は、本年7月10日締め切りの『英語語法文法研究』への応募論文がその対象となります。

英語語法文法学会奨励賞授賞規定

（授賞の対象）

第2条 奨励賞は、毎年7月10日を締め切りとする。

『英語語法文法研究』への応募論文（研究論文に限る。シンポジウム論文、語法ノート、書評は除く）を対象として、英語語法文法学会の趣旨に照らし、実証性・独創性・発展性に富む、優れた研究に対して授賞する。応募者は上記の締め切り日の時点で、39歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了10年以内の学会会員に限る。

（選考方法）

第3条 編集委員会が選考にあたり、運営委員会の議を経て決定する。奨励賞の授賞は、原則として年度ごとに1篇以内とする。

（選考結果の発表および授賞式）

第4条 授賞式は年次大会において行う。受賞者に対しては、賞とともに記念品を贈呈する。

（関係部分一部抜粋）

◆運営委員の交替

本年3月中旬に開催した運営委員会（対面式を避けオンラインにて実施しました）において運営委員として以下の方の就任が承認されました（任期は2022年4月1日より2024年3月末日まで）。

松原史典（京都女子大学） [敬称略]

また、本年3月末日をもって、以下の方が運営委員を退任されました。学会運営に対するこれまでのご尽力に心より感謝申し上げます。

大室剛志（関西外国語大学） [敬称略]

◆編集委員の退任

澤田茂保先生（金沢大学）が本年3月末日をもって編集委員を退任されました。これまでのご尽力に心より感謝申し上げます。

◆編集委員長の交替

吉良文孝先生（日本大学）が昨年度末をもって編集委員長を退任されました。永年のご尽力に心より感謝申し上げます。後任として、大竹芳夫先生（新潟大学）が編集委員長に就任されることが2021年度第3回運営委員会（2022年3月7日～2022年3月13日、メール会議）において承認されました。

◆運営委員会委員の就任

今年度の各委員会の委員長、副委員長、構成員は下記のとおりです(◎は委員長、○は副委員長)。

大会実行委員会

◎吉田幸治 ○吉川裕介 松原史典 林龍次郎
住吉誠 出水孝典 [敬称略]

セミナー委員会

◎五十嵐海理 ○山本修 金澤俊吾 吉良文孝
前川貴史 濱松純司 [敬称略]

◆第30回大会研究発表者募集

第30回大会での「研究発表」の発表者を募集します。会員の方は、下記の研究発表応募規定に従い、事務局宛 (segu.office@gmail.com) に奮ってご応募ください。

なお、発表要旨ファイルと応募者情報ファイルの郵送による投稿は廃止し、事務局メールアドレスへのファイル送付による投稿と、Google Form による投稿確認との2段階で会員の皆さま方の投稿を確実に受け取れるようにしております。

<研究発表応募規定>

1. 応募者は英語語法文法学会の会員でなければならない。2名以上の共同研究で応募する場合は、応募者全員が会員でなければならない。
2. 発表時間は25分以内(別に質疑応答が10分)とする。
3. 応募者は、下記①と②の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。
 - ① 発表要旨(MS Wordファイル あるいは PDFファイル):
A4判 32字×25行(文字の大きさは12ポイント)で、本文と注を含めて4枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、氏名・所属は記入しないこと。要旨の内容は、本学会の設立趣意書に鑑み、個別言語としての英語の実態を体系的に明らかにし、英語の具体的な語彙や構文の特性を実証的に解明することを目的として、未発表のものであること。
 - ② 応募者情報(MS Wordファイル あるいは PDFファイル):
発表題目、氏名(ふりがな)、所属・職名(学生会員は学年も記入)、郵便番号、住所、電話番号、email address を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。
4. 上記①と②は、次の2つの手続きにより提出すること。

4-1. 本学会事務局宛 (segu.office@gmail.com) に、①と②を email に添付し、送信する。件名は「研究発表応募」とする。応募者は発表要旨のファイル送信に先立ち、ファイルの「プロパティ」等を確認し、ファイル情報等に作成者名を残さないこと。

4-2. 本学会の研究発表応募用ウェブページにアクセスする。ウェブページに必要事項を入力の上、送信すると応募者本人に受領のメールが届く(英語語法文法学会の gmail アドレスにもメールが届く)。ウェブページは、必要事項を全て入力しないと送信できない点に留意すること。

- (4-1)事務局へのファイルの送付と(4-2)研究発表応募用ウェブページからの記入送信の両方がそろった段階で応募が完了する。なお、ウェブページからのメール返信をもって、応募受領の通知とする。
5. 応募締め切りは、(4-1)事務局へのファイル送付と(4-2)研究発表応募用ウェブページからの記入送信の両方とも、7月25日23時59分(必着)とする。
 6. 選考結果は8月中旬までに通知する。
 7. 採用者は発表要旨(500字以内)と、予稿集の原稿を所定の期日までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。
- (2019年3月10日 改定)

[応募用ウェブサイトについて]

上記規定の4-2にある「研究発表応募用ウェブページ」は、7月10日より学会ウェブサイトから利用可能となります。

[お願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認くださいますようお願いいたします。

◆第30回大会語法ワークショップ発表者募集

第30回大会での「語法ワークショップ」の発表者を募集します。語や構文などを取り上げ、言語資料に基づきその振る舞いの特性を明らかにすることを目的とします。下記の語法ワークショップ応募規定に従い、事務局宛 (segu.office@gmail.com) に奮ってご応募ください。

なお、語法ワークショップでの各自の持ち時間は発表15分と質疑応答5分の計20分です。また、先の研究発表応募規定と同様、発表要旨ファイルと応募者情報ファイルの書式は変更ございませんが、書面の郵送による投稿は廃止し、事務局メールアドレスへのファイル送付による投稿と、Google Form による投稿確認との2段階で会員の皆さま方の投稿を確実に受け取れるようにしております。

＜語法ワークショップ応募規定＞

1. 応募者は英語語法文法学会の会員でなければならない。2名以上の共同研究で応募する場合は、応募者全員が会員でなければならない。
2. 発表時間は 15 分以内(別に質疑応答が 5 分)とする。
3. 応募者は、下記①と②の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。

① 発表要旨(MS Word ファイル あるいは PDF ファイル):

A4 判 32 字×25 行(文字の大きさは 12 ポイント)で、本文と注を含めて 4 枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、氏名・所属は記入しないこと。要旨の内容は、本学会の設立趣意書に鑑み、個別言語としての英語の具体的な語彙や構文の特性を調査した成果を報告することを目的として、未発表のものであること。

② 応募者情報(MS Word ファイルあるいは PDF ファイル):

発表題目、氏名(ふりがな)、所属・職名(学生会員は学年も記入)、郵便番号、住所、電話番号、email address を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。

4. 上記①と②は、次の 2 つの手続きにより提出すること。

4-1. 本学会事務局宛(segu.office@gmail.com)に、①と②を email に添付し、送信する。件名は「語法ワークショップ応募」とする。応募者は発表要旨のファイル送付に先立ち、ファイルの「プロパティ」等を確認し、ファイル情報等に作成者名を残さないこと。

4-2. 本学会の語法ワークショップ応募用ウェブページにアクセスする。ウェブページに必要事項を入力の上、送信すると応募者本人に受領のメールが届く(英語語法文法学会の gmail アドレスにもメールが届く)。ウェブページは、必要事項を全て入力しないと送信できない点に留意すること。

(4-1)事務局へのファイルの送付と(4-2)語法ワークショップ応募用ウェブページからの記入送信の両方がそろった段階で応募が完了する。なお、ウェブページからのメール返信をもって、応募受領の通知とする。

5. 応募締め切りは、(4-1)事務局へのファイル送付と(4-2)語法ワークショップ応募用ウェブページからの記入送信の両方とも、7月25日23時59分(必着)とする。
6. 選考結果は8月中旬までに通知する。
7. 採用者は発表要旨(500字以内)と、予稿集の原稿を所定の期日までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。

(2019年3月10日 改定)

[応募用ウェブサイトについて]

上記規定の 4-2 にある「研究発表応募用ウェブページ」は、7月10日より学会ウェブサイトから利用可能となります。

[お願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送付に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認くださいますようお願いいたします。

【応募上の注意】

研究発表と語法ワークショップの両方に同時に応募することはできません。
また、二重投稿はご遠慮ください。

◆『英語語法文法研究』投稿募集

『英語語法文法研究』(第29号)への投稿を受け付けています。論文・語法ノートへの投稿は現代英語の語法および文法研究に資する内容のもので未発表論文に限ります。原稿ができた時点で早目に投稿していただければと思います。

近年インターネット上の用例を使用されている投稿論文が多いようです。インターネット上の用例を使用する場合は、インフォーマントチェックを必ず受けておいてくださるようお願いいたします。

なお、本規定の第4項以下が2019年8月の編集委員会・運営委員会で大幅に改訂されておりますので、ご確認をお願いいたします。

＜『英語語法文法研究』(第29号)の論文・語法ノートへの投稿規定＞

1. 投稿は会員に限る。
2. 投稿論文は現代英語の語法および文法研究に資する内容のものであり、未発表の論文であること。
3. 投稿締め切りは 7月10日(必着)、採否決定を8

月中旬、刊行を12月とする。

4. 単著・共著にかかわらず、同一人が同時に2本以上の論文を投稿することはできない。論文と語法ノートに各1本(計2本)、あるいは語法ノートのみ2本以上の投稿は認められる。
5. 論文の場合、長さは34文字×31行、16枚以内とする。語法ノートの場合、長さは34文字×31行、6枚以内とする。注は脚注とし、脚注の文字数も論文・語法ノートに規定された総文字数に含める。
6. 投稿者は、下記①と②の電子ファイル、ならびにその紙媒体を用意する。

- ① 「論文」・「語法ノート」の原稿(MS Word ファイルまたはPDFファイル)

冒頭には論文題名のみを記し、名前・所属は記入しない。また、ファイルの情報として作成者名を残さない(ファイルの「プロパティ」等を確認し、必ず作成者名を削除するか匿名にする)。

- ② 執筆者情報(MS Word ファイルまたはPDFファイル)

論文題名、氏名(ふりがな)、所属、連絡先の郵便番号と住所、電話番号、email address を明記する(共著の場合は、執筆者全員の情報を明記のこと)。投稿論文が奨励賞の審査対象となることを希望する場合は、必ず、当該年度の投稿論文応募の応募締切時点での年齢と、大学院修士課程あるいは博士前期課程を修了した年月(または、在籍中ならばその旨)を、このファイルに明記すること。(奨励賞の候補者は、39歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程を修了10年以内の学会会員に限る。)

なお、紙媒体については、①と②を、A4用紙にそれぞれ1部印刷する。

7. 入力に関しては、特に以下の点に留意すること。
 - a. 投稿の段階では原稿に謝辞を入れない。
 - b. 例文の前後に1行ずつの空白行を設ける。
 - c. 各節には見出しをつけ、節の前に1行ずつ空白行を設ける。
 - d. 外字、機種特有の文字・記号は使用しない。
 - e. 和文中の英語の語句の前後に半角のスペースを入れる。
 - f. 2桁以上の数字は半角を用いる。
 - g. 小説・論文の出典は下のように表記する。(S. Sheldon, *The Windmill*), (Declerck 1979: 123)

h. 上記以外は既刊号の論文を参考にすること。

8. 参考文献の書式は以下の例にならうこと。

Hopper, P. J. 1979. "Aspect and Foregrounding in Discourse." In T. Givón ed., *Syntax and Semantics* 12, 213-241. New York: Academic Press.

柏野健次. 1993. 「easy タイプの形容詞の3つの意味」衣笠忠司・赤野一郎・内田聖二(編)『英語基礎語彙の文法』145-154. 東京: 英宝社.

小西友七. 1976a. 『英語の前置詞』東京: 大修館.

小西友七. 1976b. 『英語シノニムの語法』東京: 研究社.

Lasnik, H. and M. Saito. 1984. "On the Nature of Proper Government." *Linguistic Inquiry* 15, 235-289.

村田勇三郎. 1979. 「Functional Sentence Perspective」『英語青年』第125巻第3号, 20-21.

Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.

van der Leek, F. 1996. "The English Conative Construction: A Compositional Account." *CLS* 32, 363-373.

9. 原稿の採否は編集委員会の審査により決定する。
10. 著者校正は1回とし、変更は字句の修正のみとする。
11. 原稿料は支払わない。
12. 応募書類の提出先

第6項の①と②の電子ファイルはemailに添付して、編集委員長宛に email(segupaper@gmail.com)で送ること。件名を「投稿」とする。また、①と②の紙媒体は、編集委員長宛*に郵送すること(「投稿論文在中」と朱記)。

*〒950-2181

新潟市西区五十嵐2の町8050番地

新潟大学人文社会科学系 大竹芳夫

(2021年11月19日改定)

【応募上の注意】

研究発表との二重応募、他学会の機関誌との二重投稿はできません。

◆英語語法文法学会第29回大会（報告）

英語語法文法学会第29回大会は2021年10月16日（土）、オンライン方式により開催され、語法ワークショップ、研究発表、シンポジウムが行われました。多数の参加者があり、活発な議論が行われました。司会を務めてくださった吉川裕介先生、前川貴史先生に感謝申し上げます。

語法ワークショップ 10:30-10:55

1. 「get a look の get は軽動詞か？」井口智彰（大島商船高等専門学校）

研究発表 11:00-15:15

1. 「比較構文における形容詞の相対性と絶対性に関する一考察」島本慎一郎（日本大学）
2. <発表者の都合により中止>
3. 「英語における V-ing 補文の主語の構文文法的分析」酒井啓史（筑波大学大学院）
4. 「知覚動詞の現在分詞補文に見られる話者の心理的作用について」村岡宗一郎（日本大学大学院）
5. 「連結動詞 remain の意味と否定辞 un- を伴う主格補語構文」岩宮 努（大阪大学大学院）

シンポジウム 15:35-17:45

テーマ「正しい英文解釈に必要な語法文法知識」
司会 吉田幸治（近畿大学）

1. 「伝統的英文解釈指導の功と罪—必要なことと不必要なこと—」吉田幸治（近畿大学）
2. 「否定と肯定の強さ—not very, barely/hardly/scarcely, by all means をめぐって—」林龍次郎（聖心女子大学）
3. 「文法構文とその変種の意味について」岡田伸夫（関西外国語大学）

◆2021年度新入会員紹介

以下の方々が新しく本学会に加入されました。どうぞよろしくお願ひいたします（50音順。掲載希望者のみ）。

岡 麟太郎（日本大学大学院）
岡田 真実（関西外国語大学短期大学部）
児玉 一宏（京都教育大学）
柴原 大河（日本大学大学院）
高橋 洋平（東京情報大学）
富山 晴仁（四国大学文学部国際文化学科）

[敬称略]

◆2020年度会計報告（Apr. 2019 - Mar. 2020）

（第29回大会総会（オンライン）において承認されました。）

(収入)		(以下、単位：円)
前年度繰越残高		3,270,406
会費		1,464,000
学会誌売り上げ		27,018
懇親会費		0
雑収入		40,501
計 (1)		4,801,952
(支出)		
事務局費		10,660
通信費		177,231
旅費交通費		5,110
印刷費		0
人件費		48,000
会議費		0
消耗品費		11,973
雑費		4,166
雑誌製作費		639,238
大会運営費		0
計 (2)		896,378
残高現在 [計(1)－計(2)]		3,905,547

◆年会費納入のお願い

本学会の年会費は、2013年4月1日より、「一般会員」は5,000円、「学生会員」は4,000円となっております。つきましては、2022年度（2022年4月～2023年3月）会費を同封の郵便払込取扱票でお支払いください。申し訳ありませんが、払込手数料は各自ご負担ください（郵便振替料金は203円（ATMからは152円）です）。金額欄が10,000円または8,000円になっている方は、前年度分年会費が未納ですので、併せて納入くださいますようお願いいたします。会費が2年連続して未納の場合は、会員資格が失効いたします。「学生会員」は郵便払込取扱票の通信欄に住所・氏名に加えまして、「在籍大学（院）名」もご記入ください。なお、学会からの配布物を確実にお手元にお届けするために、住所・所属に変更や異動のある方は、新住所・所属を郵便払込取扱票通信欄に明記いただくか、英語語法文法学会のウェブサイト（<http://sequ.sakura.ne.jp/>）の「登録情報の変更」連絡用フォームにて事務局までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

本学会では自然災害等における被災者に対しては、原則として災害発生年度の学会費を免除しております。対象となる方は事務局宛ご連絡ください。

◆新刊書紹介

- 金澤俊吾・柳朋宏・大谷直輝（編）『語法と理論との接続をめざして 英語の通時的・共時的広がりから考える 17 の論考』東京：ひつじ書房、2021年9月
- 登田龍彦『英語教師を変える楽しい学び直し—自律的学習を導く語彙・文法指導の原点—』東京：開拓社、2021年9月
- 八木克正『現代高等英文法—学習文法から科学文法へ—』東京：開拓社、2021年10月
- 平沢慎也『実例が語る前置詞』東京：くろしお出版、2021年12月
- 井上永幸（監修）・和泉爾（編）『コーパス・クラウン総合英語』東京：三省堂、2022年1月
- 田中智之・茨木正志郎・松元洋介・杉浦克哉・玉田貴裕・近藤亮一（編）『言語の本質を共時的・通時的に探る—大室剛志教授退職記念論文集—』東京：開拓社、2022年3月
- 菅井三実・八木橋宏勇（編）『認知言語学の未来に向けて—辻幸夫教授退職記念論文集—』東京：開拓社、2022年3月
- 中邑光男・山岡憲史・柏野健次（編集主幹）『ジーニアス総合英語第2版』東京：大修館、2022年3月

◆終身会員

2020年の大会で終身会員制度が認められ、発足しました。該当する会員は、本学会 HP の「学会規約」タブの中の「終身会員規定」の条件を確認したのち、本学会 HP の「入会方法について」タブの中の「終身会員の手続き」をご覧ください。

◆訃報

本学会の設立発起人の一人であり、本学会設立当初から 2001 年度まで運営委員を務められた大沼雅彦先生が 2022 年 1 月 5 日、ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

2020 年 4 月より事務局長を務めてまいりましたが、2022 年 3 月末をもって退任し、2022 年 4 月からは西脇幸太先生が事務局長に就任されます。また、会計・名簿管理担当も吉川裕介先生が退任され、佐藤健児先生が新たに就任されます。中澤和夫会長は 2 期目に入ります。この 2 年間は新型コロナウイルス感染症という前例のない事態に対応する必要がありましたが、中澤和夫会長、事務局長の補佐を務めていただいた西脇幸太先生、また運営委員の先生がたのご尽力のおかげで乗り切ることができました。

2021 年度も 2020 年度と同様、新型コロナウイルス感染症が蔓延する状況が引き続き、大会と語法文法セミナーを対面で実施することができませんでした。しかしながら、2021 度は、大会実行委員長の濱松純司先生および大会実行委員の先生がた、セミナー委員長の前川貴史先生およびセミナー委員の先生がたのご尽力により、Zoom を用いてリアルタイムで大会およびセミナーを開催することができました。この場を借りて、お礼申し上げます。2022 年度の大会もまた対面での開催は叶わず、Zoom を用いたオンライン方式での開催となりました。パンデミックが速やかに収束し、以前の生活に戻ることを切に願います。 (2022 年 4 月 12 日 山本修)